
『魔法使いたちの幻想曲』

希流

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『魔法使いたちの幻想曲』

【著者名】

希流

NO855N

【あらすじ】

霧雨月雅は”普通”的な大学生だった。

あの日を境にして、彼の普通による普通の日常は、混沌の荒波に押された日常へと打って変わってしまう。

あの出来事さえ無ければ……。

謎の厨2病ファンタジーいまここに開幕。

第1羽　はじまり。

この桜を見るのは何度目だろうか。

また今年も満開の桜が舞い散る、僕はいま現在大学生。つらかった高校受験を乗り越え、気づけば高校を卒業しており、特にやりたいこともなかつたから大学へと入学したのだ。

ちなみにだが、僕の名前は、霧雨月雅。キリウツキ ミヤビ

僕はまだその時、知らなかつた。まさか、あんな事に巻き込まれるなんて……。

春は異様なくらい眠気が襲つてくる。それは授業中であつたり、テスト中、勉強中・・・嫌いなもののはばかりにやつてくるものだ。

大学にいる時、ポケットに入れている携帯のバイブレーションが足を伝つて響く。

「ん、誰からだ？」

電話相手は非通知。

誰だ、もしや誰かが番号変えたのかもしれないな。

----- ページ

『ツー。ツー。

「あん? なんだよ切れてるじゃねーか

電話を切ろうとした瞬間、携帯の奥から声が聞こえてきた。

『ザザザ…ツ…ザザツ…霧…雨月 雅様、ガ…』登録ありが
とうござります。』

ピッタリツーツー。

・・・・・なんだ、いまの? 新手の嫌がらせか?

まあいい、どうせどこかの暇を持て余している若者が適当な番号に
かけまくつてこるだけだろう。

まだ僕は全然気づいていなかった。いや気づけるはずもない、

なんせ”相手”は”不明”なのだから。

そして帰り道。事件はすべての始まりを僕に告げようとしていた。

— 今日の晩飯はなに食べようかな。また「コンビニ」でいいかな。
僕は家事が嫌いだ。だから、「飯とかもインスタントや「コンビニ」が必然的に増えてしまう。

丁度、そのとき、僕が“食べるもの”を決めたと“同時”に＊＊＊は降ってきた。

-----!

謎の何かが上から地面に落ちてきた。

人々がざわざわとざわめいている。

まあ僕には関係ない」と。

僕は面倒事が嫌いだ……そのときだつた。僕の耳元に虫の声みたいな微かな声が聞こえた。いや、聞いてしまつた。といづべきであろう。

『タスケテ…ワタシヨタスケテ』

耳元から聞こえる透き通ったその声はどこか幼さがあり、悲しみに満ちているようにも聞こえた。

なぜ、あの口、あの時間、あの場所。僕はあれこれしたのだから

....。

第2羽 encounter 出会い

『タスケテ…ワタシヲタスケテ』

僕はなぜこの場にいるんだろうか。いやでもこれを聞いてくるのは僕のみなのかな？

でもあたりを見ても誰も反応を示していない。

これはやっぱり僕に対するものなのかな？

そのときだった。

突然視界が真っ暗になる。

ーはー?なんだよ、コレ、

その暗くなつたと同時に高らかな声が闇と共に鳴して響きわたる。

『ツ…やつと見つけたわ、”羽が無き少女” テンシ…』

・・・羽が無き・・・・・なんだつて?

『貴女の命 トモシビ もいこまでのよーね』

謎の少女がそう言い放つ。

く・・・なんだよこの非日常的展開は！？だったら僕のクラスにも力チューーシャの似合ひ転校生が来て振り回される方がよっぽど嬉しいわー！と自分にツッコミをいれてる場合ではない。

く・・・・・僕はどうするべきだ。

このまま、気づかぬ振りをして逃げるか、その少女に対抗するか。

一いつ | たつ

『じじゃあ、『』で終焉 オフリ のようね 消えないそ』

・・・・・『気づけば僕は走っていた。

逃げるためではない。人を救う為。そして立ち向かうため。
土煙が舞つ中で僕はまっとう出合えた。

「『ホッ』『ホッ』……君が……”羽が無き少女” テンシ だね？」

僕の問いかけに對して少女ははじめて無言だった。

『……。データベース更新、最新版D-L中。霧雨月雅サマ、貴方をワタシの権力者 マスター として認証します。』

権力者 マスター だと？

つていうことは契約つてことになるよな。

「あのさ、それは契約つてことだよね？主従関係になるつてことだよね？」

『はい、そういうコトになります。』

契約・・・・・・・・・。マンガではよくあるコトだが実際現実的に見るとなんか契約つていう響きが悪い。

「仮にだけども…もし俺がいまココで権力者 マスター にならなかつたらは？」

その少女はどこか悲しそうに、そしてどこか辛そうにして俺に言った。

「もし、今の時点で霧雨月サマが権力者破棄 デッドマスター されるとワタシはあの少女…いえ、”飛び石の黒炎” マジリビ 殺されてしまいます。」

・・・・・ こんな子をほおっておけるわけにはいかないだろう。

非日常ライフを満喫するのも悪くはないかもな。もしかしたらリア充よりも上に行けるかもしれんな。

「 „羽が無き少女“、契約を成立させよつじやないか」

第3羽 mirror world 鏡の世界

「ああ、いいだろつ、”羽が無き少女”……僕がおまえの権力者マスターになつてやるよ。」

「ほんとに権力者くマスターへ…………？」

「ああ、誓う。こんな時にデツド……なんだつけ？まあいいや、なんかしてられつかつーのつ」

「それでは…。霧雨月雅サマ、私”羽が無き少女”の権力者くマスターへとして認証いたします」

その時だった。いよいよ”飛び石の黒炎” マジリビ も退屈になつたのだろう。

『ナニ？君たち、もしかして…ふうん。契約しちゃつたんだあ…つまんないのあ』

その台詞がもしかしたら何かの合図だったのかもしれない。

”飛び石の黒炎” マジリビ は突然武器を構えた。

『権力者くマスターへ出来たのなひ…マスターを殺して権力者破棄 デツドマスターさせぬしかないものねえ…。うん』

「雅サマ、”飛び石の黒炎” マジリビ 動き出します。応戦しますか？」

一つ、この場合どうするべきなのか。

戦う？誰が？… 羽が無き少女” ＜テンシ＞なら戦える…のか・・？

『Ｚｏ－2 ”飛び石の黒炎” マジリビ 我が武器、ロンギヌスと共に…』

——ちつ、相手は武器持ちかよ、”羽が無き少女” ＜テンシ＞も持つてるんだろうが、まだ権力者＜マスター＞なつたばかりの俺では無駄な足掻きにしかならない。

「・・・・・テ、”羽が無き少女” ＜テンシ＞」

「今日は・・・に、逃げるぞ。今の俺たちじや無駄死にするだけにしかならん」

「愚りました。では緊急脱出用コードプログラムウェアを発動れやめや」

『緊急脱出用コード…フフフ… そんなモン、アタシがぶつこわしてやんよー。』

”飛び石の黒炎” マジリビ ガ槍を振り回す。

『これで死にな。 羽が無き少女” ＜テンシ＞、ツツ…！』

”飛び石の黒炎” マジリビ が投げつけた槍が猛スピードで ”羽が無き少女” <テンシ>に向かられる。

「…マスター。時間が足りません、後一分は必要です」

ーー!?なんだと…こんな少しの時間で終わってしまうのか。俺は…、いやまだ策があるハズだ…、俺が無理なのか、と思ったその時…だつた。

「…”飛び石の黒炎” マジリビ ちゃん…汝は遊び過ぎた…断罪の時間よ」 黒髪の女がテンシの前にいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0855n/>

『魔法使いたちの幻想曲』

2010年10月13日05時10分発行